

■第1小委員会議事録

委員名：橋本委員、江連委員、伊吹委員、相馬委員、斎藤委員、八木澤委員、益子委員、山本委員、薬師寺委員(欠席)

【基本目標1】誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性2 地域福祉のニーズキャッチの充実 評価結果：B

◆施策方向性3 福祉サービスの充実と権利擁護 評価結果：B

(意見)

委員：企画部門が、従前から施策ではないような施策をテーマに出してきている状況があるので、例えば公民館をお貸ししますなど、実施計画にしている。そういったものは、実施計画から除いた方がよいと思います。

委員：福祉総合相談窓口を選任の職員を配置するように要望しましたが、どうになりましたか。

事務局(市)：現在は、会計年度任用職員ではありますが、資格はありませんが、相談支援の実務経験を有する方を専任で配置しています。

委員：ワンストップで窓口を設けるということになっていますよね。

事務局(市)：現時点ではワンストップではないです。各相談窓口を連携させるような考え方になっています。

委員：窓口はわかりやすいところにあるのですか？

事務局(市)：窓口として前面に出しているというよりは、機能を備えたということで、人を配置して、その人がつなぐという考え方になりますので、どこかひとつ場所を設けて窓口をしている訳ではないです。相談しやすいスペースがあればいいのですが、現段階では、場所がないという状況です。

委員：どこに相談したらよいかわからない、どこに行ったらよいかわからないという状況だと思います。

委員：正面玄関入ってすぐのところに置いておくと良いかもしれませんね。社協の各支所で、2年前からのコロナ禍の関係で、事業ができなかったという支所がありましたが、令和3年度は、少しは改善されたように見受けられましたが。

事務局(社協)：地域だったり、老人クラブだったり、声掛けをして、動けるところには関わってもらってきたのですが、やはり、コロナ禍だからできないと言われると、相談はするけど、活動はできなかったというところがありました。

委員：地域特性はありまして、オンラインで何もかもできるかというところ、高齢者が多いところはそうはいかないので、もう少し知恵を絞って、感染リスクを避けるということなので、少人数でやるとか、少人数で回数を増やすとか、屋外でやるとか、色々なシチュエーションはあるかと思っています。そういうところをもう少し工夫をしてもらいたいと思います。

委員：一部、地域であるという評価がありましたが、地域の関係で、人が立ち入れないような地域もあるので、若干やむを得ないというところもあるのかなと思います。今回は、コロナを増やすなということがあったので、地域の感じ方もあったのかなと思います。

事務局(社協)：コロナが一時減少した時期には、地域でもおまつりとか自治会活動も進めてもらうようにしていたので、今はまた増えてきましたが、ピークアウトしてくれば、徐々に進めていけるとは思います。

委員：コロナのおかげで、ここ2年くらい、世の中が変わってしまったというくらいの勢いで、皆さん苦勞もされているのかなと。個人的には福祉の部分で関わっているの、何ができるのかなという、やはり障害者の中には、マスクができない方もいらっしゃる、感染リスクを心配しながら、エッセンシャルワーカーの方々は、本当に心配しながらやっていて、人との関わりも、仕事という立場よりも大切にしたい、何とか支えていきたいということがすごく大切ななと思ひまして、そこで、そうしていったら良いのだろうという、感染対策をするしかないということしか言えないですが、そういう方々を支えていく方向、コロナ禍になったからこその関わり方を必要としていければなと思っています。

【基本目標2】 誰もが暮らしやすい生活環境づくり 評価結果：B

◆施策の方向性1 生活環境の充実 評価結果：B

◆施策の方向性2 防災・防犯体制の充実 評価結果：B

◆施策の方向性3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり 評価結果：B

◆施策の方向性4 地域における見守り体制の充実 評価結果：B

委員：基本目標2の中には、公共交通についての利便性の向上を図りますであるとか、日常生活における支援体制の充実を図っていきますということが書かれていますが。冒頭の事務局の説明の中でもゆータクのこともありましたけれども、いかがでしょうか。

委員：空き家が全国的に増えていて、治安上問題になっているということがありますが、空き家に対して何か感じたことはございますか。市では、空き家対策審議会というものを開催していますが、日常生活をしていく中では、空き家ができると治安上であったり、防火上であったり、色々住民から不安が寄せられてきています。それから、公共施設のバリアフリー化も基本目標2の中に入っています。総務省が推進している、災害時の避難行動要支援者支援事業、これについても、昨年度はコロナ禍で、自治会が個別計画を策定するのを遠慮して、市の方も対象者名簿を配らなかったという経緯はありますが、災害は待ってくれませんので、肅々と進めていかなければならない事業のひとつですけれども、これに関して、何か良い案があれば発言をお願いします。

委員：私のところの事業所を利用する障害を持った方にとっては、本数が少なかったりとか、利便性が向上と書いてありますが、どうなのかなとおっしゃっている方がいたので、体

に障害を持っている方からすると、どうなのかな、というところを検討していただけると、全体的に良くなっていくのかなと感じたところがありました。

委員：福祉タクシー券を配布していますが、これについては、対象者として、家族が住んでいる場合は、対象にならないですね。このあたりを拡大解釈してもらって、ゆーバス、ゆータクは、なかなか利用しづらいので、福祉タクシーはを利用しているというのが現状だと思いますが、市民の方が、運転免許証の返納を、自治会長が勧めても、福祉タクシーは使えないという言葉たまに聞きます。今の社会生活は、家族がいるから四六時中面倒を見られるという環境ではないので、同居している方は、日中は仕事に行っているかも知れないし、親子の仲が悪く、面倒を見ないという人もいるかも知れないし、福祉サービスが低下することになりますので、ある所で線を引かなければならないということは理解はできますが、再度検討していただきたいと思っています。

委員：歳をとると、病院に通わなければならないので、財産や障害の程度にもよるけれども、高齢者も考えていただけるような公共交通機関がしっかりしていれば、問題がないのですが、また、財産がいっぱいあれば、個人的にタクシーを頼んで行けますが、そのあたりの区別も変えていただければ心強いかなと思っています。それから、避難の話ですが、障害の程度によって、避難できない方もいるということだけ頭に入れていただかないと、ということはやわらせていただきたい。

【基本目標3】みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり	評価結果：B
---	---------------

◆施策の方向性1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり	評価結果：B
------------------------------	--------

◆施策の方向性2 地域福祉活動の担い手の育成	評価結果：B
------------------------	--------

◆施策の方向性3 地域でのつながりづくり	評価結果：B
----------------------	--------

委員：職業が高齢を主にやっていますが、一部障害もやっています。障害者の方が、お歳をめされた時に、高齢の施設になるので、障害の施設になるのか、お考えになるご家族の方がいらっしゃるということが時々聞こえてきます。その理解というか共生という形になると思うのですが、そういうところも課題になってくるのかなと感じています。

委員：基本目標3の項目だけでなく、那須塩原市は、3カ所に支所に分かれていて、それぞれが評価を出してきて、できなかったからDとかCとかになっているが、他のところでも無理やりBが付いているところもあり、評価の仕方が職員によって違うので、支所同士で情報交換ができると良いと思う。いつ災害が起きるかわからない、評価の時もそれがわかっていて、うまくいかなかったという表現があって、コロナだったから何もできなかったで終わってしまったのは、それこそ大変なことになると思うので、コロナが一番いけないとは思いますが、もう少し頼れる市であって欲しいと思います。自分の地域でも訓練などを全部中止にしているため、何か良い方法はないかなと思っています。

委員：今、子ども食堂をさせてもらっているのですが、コロナ前は、1か月に1回第3土曜日にさせていただいていたのですが、コロナになってからは、今年に入ってから、今までは作ってふるまっていたのですが、お弁当を買って配っています。

委員：市民を巻き込んでいるのですか？生活学校のメンバーだけでやっているのですか？

委員：やっているのは、役員の方たちです。小学校に希望を募りまして、今のところは7人くらいの希望者ですが、まだコロナで始まったばかりですので。

委員：資金はどうしているのですか。

委員：なかなか厳しいものがあります。

事務局(社協)：寄付とフードバンクですね。自分たちでフードバンク事業をやったり、寄付を募ったりして、生活学校はやっています。

委員：作っている頃は、農協からお米を援助していただいたりしたのですが、だいたいを持ち出しですね。フードドライブとかもさせていただいています。

委員：基本目標3で掲げているつながりづくりやボランティア活動ですよ。これからも継続して続けてください。

(全体についての意見)

委員：昨年の5月から、くるるで、月2回認知症の方もしくはご本人や家族の方を対象に、カフェという形をとって、笑温カフェというものをやっていて、手伝っているのですが、すごく目立つのが、定年退職してから那須塩原市に移り住んだ方、那須町の方も来られている方がいるのですが、都会の方が結構多く来ていて、予算はひとり100円で、午前中10時から11時半まで、コーヒーを挽いて、クッキーを出すのですが、お休みになっちゃうと、予算が全部削られてしまって、リーダーの人が自己負担してやっているの、そういうところを何とかしてほしいと思います。

事務局(社協)：西那須野だとオレンジドアにしなすのという当事者の会があって、笑温カフェとも連携しながらやっているのですが、今年度、チームオレンジという認知症対策や認知症予防、当事者の方の行ける場所ということで、今、黒磯と西那須野でやっていますが、もっと広げていたり、交流を広げていたり、医療機関との連携が必要になってくるので、そういったところも進めていきたいと考えています。後は、ご家族が来られる場所として、ケアラズカフェという場所があるのですが、全体的にまだまだ啓発が足りないの、医療機関からも、どういう方をつないで良いかわからないという話もあるので、そういったところも実際に専門の先生にも来てもらって雰囲気とか体験してもらえれば、実際につないでもらえたりするのかなと考えています。今、二つ居場所があるので、連携していけたらと思っています。関わるボランティアの方たちをもっと増やして行って、継続性のある活動にしていけないと意味がなくなってしまうので、そういったところも、ボランティアセンターとも協力できるかなとか考えています。

委員：今、お二方から発言がありましたが、共通して言えるのは、資金の問題ですね。資金

は、広く市民から募ってよいと思います。クラウドファンディングでも何でもやってもよいと思うし、今は、そのような世の中であると思います。資金ではどこでも苦勞しているようですね。そういうところをみんなで理解して助け合っていくということが重要だと思います。これは、任意から始まった心温まる事業ですので、資金面を担保しながら、やっていくのがいいのかなと思います。

委員：人づくりということを考えると、福祉制度がどんどん変わっているのですが、以前は、ケアホームというものがあつたのですが、今はグループホームに変わって、24時間対応の施設がなくなっています。勤める人がいない状況です。福祉関係の仕事が3K扱いになってしまっているのということがあるのではないかと考えています。そのあたりを、啓発していただけたらと思います。親の亡き後のことを考えると、施設が必要だなと思うのですが、だんだんなくなっているので、ぜひご配慮いただけるような制度にしていただけたらと考えています。

委員：ボランティア活動は、この2年半くらいはどうなんですか。

事務局(社協)：社協のボランティアセンターに関しては、人が集めるイベントだったり、施設の訪問というものが多かったのですが、やはりコロナ禍ということで、施設に行けない、イベントが少ないという部分で、依頼は少なくなってきているのですが、昨年度は、オンラインで施設とつないで、交流したりということを進めています。後は、傾聴ボランティアは、なかなか施設に行けなかったり、個人宅もなかなか行けないということもあつたのですが、新しい方法ということで、ご用があればボランティアセンターで日程を合わせて、1対1で広いところで話を聴けるという方法をとったりと、ボランティアの中で、コロナ禍に対してどういうことができるかということで、工夫を凝らしながら対応しているところもあります。

委員：福祉計画・福祉活動計画は、総体的に、若者の参画が少ない、参加するためには、理解してもらうことが必要なんです。若年層にこういった情報を提供して、理解をしていただく、これはまちづくりも同じですが、生き生きとしたまちづくりという抽象的なことではなく、若者が行きたくなるようなまちづくりをしてくださいと。今、移住が社会現象になっていて、若者が魅力を感じるような情報発信をしなければならないと思います。この計画についても、一部の地域では、見守りやごみ出しをやっているところもあるのですが、そういったところに関わってもらえるように、こういった計画を提供して、理解してもらってということも必要だと思います。ぜひ、若者を巻き込んでという視点を持ってもらいたいと思います。